

第23回鈴鹿市文芸賞の受賞作品が決まりました

◆一般の部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	小説	浦田純奈	KAGUYA
	エッセイ	樋口祥巳	姉
	アフォリズム	小川はつこ	初恋は、胸の中で始まる。何度目かの恋は、頭の中で始まる。
	詩	深谷孝夫	昭和の人間
	短歌	児玉亮子	夕刻の少女
	俳句	山岡ひろし	一葉落つ
	川柳	西垣こゆき	慎ましく
優秀賞	小説	小津順吉	ラブレター
	エッセイ	太田泰子	本当のサンタクロースがやってきた
	アフォリズム	中山美保	哲学者が、「幸せとは、ほんとうのことを確かめあうこと」と主張していたので、確かめあってみたら、幸せがふっとんだ。
	詩	梅山憲三	メグミさんの楽器
	短歌	大谷仁志	風は秋
	俳句	浜西修	秋に浸る
	川柳	松長一步	団地生活

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	小説	伊達まさ	鈴鹿の一番
	小説	麦畑羊一	面を打つ
	エッセイ	平英男	パンク
	アフォリズム	吉崎勝	解釈の変更で戦争ができるのであれば、「理念」という言葉は日本語の辞書から削除しなければならない。
	アフォリズム	トーク藤沢	国境とは、常に拡大解釈を含むエゴの垣根である。
	詩	大谷仁志	私はパーマをかけたことがない
	詩	平英男	戦争
	短歌	村上英明	入院病棟
	短歌	渡部明美	道祖神
	俳句	仲見たかし	大楠
	俳句	大野信子	桜東風
	川柳	山口玖美	加齢です
川柳	竹口みか子	旅の途中	

◆ジュニアの部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	作文・童話	伊藤千夏	夏の空に思うこと
	詩	該当者なし	
	短歌	中野美美	げたばこのくつが「整列！」前ならえでも一つだけとびだしてるよ
	俳句・川柳	中林凜	妹と春を探しに原っぱへ
優秀賞	作文・童話	寺本萌里	雨と「思い」
	詩	郡山恵恕	せんぷうき
	短歌	鈴木琉玖	かけ動くなぜ動くのだついてくる止まると止まる走ると走る
	俳句・川柳	湯川さくら	まどをあけカエルの声がとびこんだ
奨励賞	作文・童話	伊藤もも音	にじいろのコスモス
	詩	佐野瑠勇	うわぎ
	短歌	井ノ本響	太陽のまばゆい光浴びながらけんめいに鳴くセミよがんばれ
	短歌	道明咲恵	コンパスではじめてかけたきれいな円まけていないよあのまん月に
	短歌	河村陽香	地につもる白くふる雪はんしゃして地と天ふたご満月だ
	短歌	久保茉白	空高く上がったけれど木にかくれ半分見えぬ大きな花火
	短歌	辻美空	あさがおが花を開いてラッパのよう今にも音が鳴り出しそうだ
	短歌	橋本和生	百円で買い求めたる風鈴は値段以上のすずしさ運ぶ
	短歌	服部由依	夕暮れが輝く理由はたくさんの笑顔と感謝があふれるように
短歌	川村舜生	ありがとうやさしかったねおじいちゃんりょう手をあわせてお話しよう	

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	短歌	勝田陽	まが玉のピンクをえらびけずったらおかあさんに見せなくなった
	短歌	小林星生	かげうごく夕がたなるとながかったおひるに見ると赤ちゃんみたい
	短歌	成山心優	葉っぱたちそろそろ服を着がえなきゃ赤にオレンジどの色の服
	短歌	後藤初花	秋が来た色がぼんぼんふえていく風がふくたび色がふえてく
	短歌	佐野敢大	花火だぞつつの花火で火の雨だふれたらやけどアチアチアチ
	短歌	平田唯翔	カマキリがあしをきれいになめているじっとみてたらぼくをにらんだ
	短歌	前田羽音	みいつけたおおきじんじゃでひろったよあきのにおいのきいろいはっぱ
	俳句・川柳	井ノ本響	南風風鈴鳴らし去っていく
	俳句・川柳	服部心勇	せみの声朝の目ざましいらないよ
	俳句・川柳	前山和愛	秋の夜スーパームーン光ってる
	俳句・川柳	匹田京花	秋の山パレットみたいに色いっぱい
	俳句・川柳	服部由依	葉っぱたち秋の魔法で色づいた
	俳句・川柳	新田浩太	雪降れば辺り一面かき氷
	俳句・川柳	服部玲伊	赤とんぼ大きなめがねなみてる
	俳句・川柳	中村隼	宿題は終わらないのに夏終わる
	俳句・川柳	小島さくら	節電かホタル光らずとんで行く
俳句・川柳	辻莉子	ビール飲みあわのひげつけ笑う父	
俳句・川柳	須藤環	くもたちがパクパクパクと月たべる	